

**紹介受診重点医療機関に指定されました**

「紹介受診重点医療機関」は、外来機能の明確化・連携を強化し、患者の流れの円滑化を図るため、医療資源を重点的に活用する外来の機能に着目して、紹介患者への外来を基本とする医療機関を明確化するものです。外来機能報告の報告内容をもとに地域医療構想調整会議において協議を行い、紹介受診重点医療機関として公表されました。

かかりつけ医からの紹介状を持って受診いただくことに重点をおいた医療機関です。

- この制度により、医療機関の混雑緩和や、スムーズな受診につながります。
- 紹介状がなく来院された場合は、一部負担金(3割負担等)とは別に、「特別の料金」がかかる場合があります。

**上手な医療のかかり方**



**i EVENT INFORMATION** | 当センターからのイベント情報をお届けします。

日時	イベント名	場所	主催
2023年10月8日(日)	令和5年度御園地区健康フェスティバル	御園小学校 グラウンド・体育館	御園地区健康フェスティバル実行委員会
2023年10月27日(金)	みんなの健康教室	石谷宮農組合	東近江総合医療センター
2023年10月29日(日)	東近江市健康・医療フェア	東近江市保健子育て複合施設 ハピネス・ショッピングプラザアピア	東近江市
2023年11月3日(金)	第19回東近江医療圏がん診療公開講座	東近江総合医療センター	東近江総合医療センター 近江八幡市立総合医療センター 滋賀医科大学医学部附属病院
2023年11月16日(木)	みんなの健康教室	五箇荘てんびんの里 文化学習センター	東近江総合医療センター

※当センターが主催・参加予定のイベントです。

**周辺地図**



**アクセス**

**公共交通機関ご利用の場合**

**電車▶バス**

JR東海道本線「近江八幡駅」下車、近江鉄道に乗り換え「八日市駅」下車。  
【近江鉄道バスご利用の場合】  
「東近江総合医療センター」または「五智前」下車。  
【コミュニティバス(ちよこっとバス)ご利用の場合】  
市原・沖野玉緒・南部御園線「東近江総合医療センター」下車。

**高速バス**

名神高速バス「名神八日市」下車、東方へ徒歩約5分。

**車をご利用の場合**

名神高速道路「八日市IC」から約2分。  
「八日市IC」を出て1つ目の信号を右折し約300m先右側。

# つながり

**鼎談** より良い医療をつなぐ

## 東近江総合医療センターの「これまで」と「これから」

病院からの最新情報をお届けします!

院長 **野崎 和彦** × 外科診療部長 **尾崎 良智** × 脳神経内科部長 **金 一暁**  
Nozaki Kazuhiko Ozaki Yoshitomo Kim Hyoh





## 鼎談 より良い医療をつなぐ

# 東近江総合医療センターの「これまで」と「これから」

2013年に滋賀病院から東近江総合医療センターに生まれ変わり、今年で10年。大きな節目を迎え、今後より良い病院にするために、野崎院長、尾崎外科診療部長、金脳神経内科部長に、当院のこれまでの取り組みを振り返りながら、今後の展望について話してもらいました。



脳神経内科部長

金 一暁

Kim Hyoh

院長

野崎 和彦

Nozaki Kazuhiko

外科診療部長

尾崎 良智

Ozaki Yoshitomo

## 地域の医療を守るために NHOの病院となり再生へ

**野崎院長**（以下敬称略）：最初に当院のこれまでの歩みを簡単に紹介させていただくと、1941年に八日市陸軍飛行連隊病院として創立し、1945年に国立八日市病院に。そして、2000年に国立療養所比良病院と統合して、国立滋賀病院となりました。その後、独立行政法人 国立病院機構の発足にともない、独立行政法人 国立病院機構 滋賀病院となり、さらに2011年からスタートした地域医療再生計画の一環として、独立行政法人 国立病院機構 東近江総合医療センターに改称されました。私自身は2022年に当院の副院長に就任し、2023年4月から院長を務めさせていただいているため、現在の体制になった頃の状況について詳しく知らないのが正直なところなんです。その頃から勤務されていた尾崎先生はよくご存知だと思いますが。

**尾崎外科診療部長**（以下敬称略）：私が当院に赴任した2008年当時は、厚生労働省による医師の新臨床研修制度がはじまってそれほど経っていない頃で、地方の病院に勤務していた医師は大学に戻ったり、転勤したりすることが多く、医師不足の病院が少なくありませんでした。当院も多くの医師が大学に戻り、特に内科系の医師が不足する状態になりました。

**野崎**：医療の将来を考えると医師の育成は欠かせないけれど、地域医療の観点でいえば大きなダメージでしたね。

**尾崎**：はい。しかし、医師不足であっても患者さんはいつも通り診療に来られますので、残った医師で協力してできる限りの対応に努めました。当時は東近江医療圏において呼吸器系の診療科がある病院は当院以外にほとんどなかったため、特に力を入れて取り組みました。入院患者さんの7割から8割は呼吸器外科の患者さんだったのではないのでしょうか。

**金脳神経内科部長**（以下敬称略）：当時は当院に限らず、多くの地方病院が危機的状況になり、大きな社会問題になっていました。ニュースでも取り上げられていたので、医療従事者以外の方もご存知だと思いますが。

**尾崎**：当院もこのままではいけないということで、行政や大学、国立病院機構（以下NHO）が話し合っ、東近江医療圏の医療を守るために地域医療再生計画が立ち上げられたんです。そして2011年に計画がスタートしてからは滋賀医科大学から医師が派遣されるようになり、常勤医師が13人だったところ、翌年には31人になりました。現在は診療科も増え、50人体制で診療にあたっています。

**野崎**：滋賀医科大学の教育研究拠点病院になったことも病院再生の大きな要因になったように思います。

**尾崎**：そうですね。医師の層が厚くなったことに加えて、地域医療に対する意識が高い若手の医師が増えたように感じます。こうした姿勢は地域の方々からも評価していただき、2015年の入院患者数と比べると約30%増えました。



**金**：私は今年の4月から当院に赴任したのですが、他院に勤務していた時から尾崎先生をはじめ関係者のみなさんが病院再生に向けて取り組み、成果を挙げられたことを聞いていて、尊敬するとともに医療従事者の一人としてうれしく思っていました。医学生教育についても、総合内科学講座や総合外科学講座が実施されるなど、力を注いでおられると感じていました。

**野崎**：病院再生の成果のひとつとして、患者さん中心の良質な医療を提供する病院であることを示す、日本医療機能評価機構認定病院の認定を2018年3月に取得したことが挙げられます。そして、2023年2月に再度認定を受けることができました。

## 地域完結型の治療へと変化し、 病院の強みを打ち出すことが大切

**野崎**：現在の取り組みや、これからの展望についてお話ししたいと思います。まずNHOの使命として、国や自治体が示す医療の方向性に沿いながら、医療の向上と患者さんの健康に貢献することを掲げています。そうしたなか、当院は東近江医療圏の医療を守るために、特に救急・小児・周産期医療の体制づくりに取り組んできました。命を守る救急は不可欠ですが、地域が活性化するためには子どもが安心・安全に成長できる環境が必要で、その基盤となるのは小児・周産期医療です。うれしいことに現在は軌道に乗っています。そして、当院の強みである呼吸器系、消化器系の領域も力を入れています。また、この地域は高齢者が多く、認知症や脳血管障害の患者さんが増えているため、今後は金先生が専門とされる脳神経内科の重要性が高まってくると考えています。



**金**：すでに高齢の患者さんの割合はかなり高く、認知症やパーキンソン病、脳血管障害の患者さんが増加傾向にあります。こうした疾患は専門の診療科でないと診るのはむずかしいので、院長がおっしゃるように地域中核病院における脳神経領域の診療科は重要になってくると思います。

**野崎**：これから地域医療をより良いものにしていくためには、従来の病院完結型の医療から、地域完結型の医療に変わっていかねばなりません。たとえば、すべての病院がロボット支援手術などの高度先進医療が行える環境を備えていても、ニーズがなければロスとなり、病院経営に支障が出てしまいます。

## Profile



院長

野崎 和彦

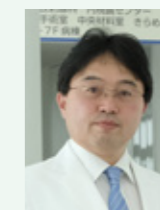
京都大学医学部 卒  
脳神経外科  
2022年4月 副院長  
2023年4月より現職



外科診療部長 / 呼吸器外科

尾崎 良智

滋賀医科大学医学部 卒  
呼吸器外科  
2008年4月 呼吸器外科医長  
2015年4月より現職



脳神経内科部長

金 一暁

滋賀医科大学医学部 卒  
脳神経内科  
2021年4月 紫香楽病院診療部長  
2023年4月より現職

**金**：そういうことが重なると、病院経営が維持できなくなるという本末転倒な事態になりかねない。今後病院は、医療の質を守りながら、経営の効率化にも取り組む必要がありますね。

**野崎**：そのためには、地域あるいは滋賀県全体で医療をとらえて、大学病院は高度先進医療、地域中核病院は幅広い診療を担当するというように、病院間で役割（機能）分担を図り、効果的に連携することが不可欠です。

**金**：地域の病院で役割分担するなかで、NHOは重症心身障害、神経・筋難病、結核など、民間病院では対応がむずかしい領域の診療（セーフティネット医療）を行う役割を担っています。

**野崎**：病院の特色を打ち出すうえで忘れてはいけないのが、そうしたことを地域の方々を知っていただくための情報発信。これがおろそかになると、患者さんはどこの病院で診てもらえばいいのかわからなくなってしまいます。

**尾崎**：地域の病院で役割分担をするという方針を理解してもらうことも大切ですね。そうでないと、患者さんは「病院をたらいまわしにされている」と、不安になってしまいますから。

**野崎**：そうですね。地域完結型の医療を実現するのは簡単ではありませんが、今取り組まなければ、再び地域医療が危機的な状況になるリスクがある。そうならないためにも、行政と連携しながらリーダーシップを発揮していきたいと考えています。

**金**：そして、当院をより良い病院にしていくためには、この10年間の取り組みを振り返って、有効だったことや改善点などを明確にする必要があると感じています。

**尾崎**：それは、これから取り組まなければいけない課題ですね。今後の改善に向けて、新型コロナウイルス感染症拡大時の経験が役立つと考えています。状況に応じて最適な対策を話し合い、迅速に実行する。こうした姿勢は、さまざまな面で活かせるはずですよ。

**野崎**：当院では現在、院内の環境改善の一環として、医師の働き方改革にも取り組んでいます。患者さんを診るうえで医師が心身ともに健康でなければ、質の高い医療は提供できません。

**金**：私は働き方改革に携わっているのですが、当院の医師は仕事に対するモチベーションがとても高いと感じています。

**尾崎**：それは心強い（笑）。これからも地域の中核病院として、地域のみなさんに信頼いただける医療を提供していけるよう、全力で取り組んでいきましょう。





教えて！  
東近江総合  
医療センター

東近江総合医療センターの

# 診療科をご紹介します

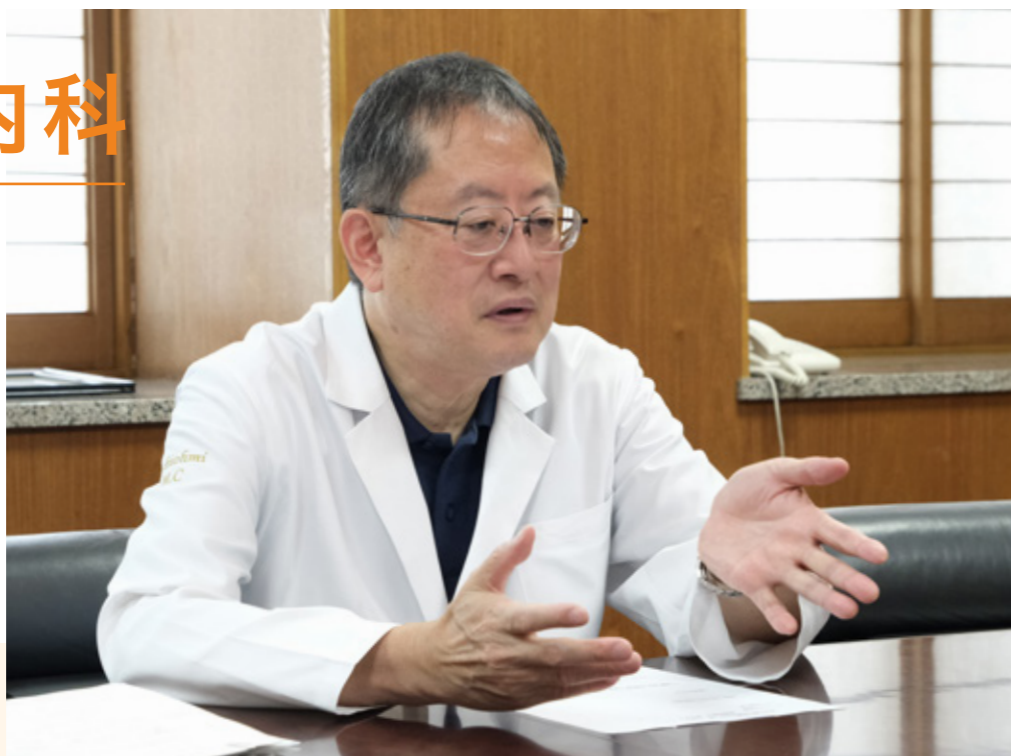
東近江総合医療センターの診療科をご紹介します。

## 循環器内科



循環器内科部長

大西 正人



### さまざまな心疾患に対応した 質の高い診療を提供

循環器内科では、緊急度が高い重症の患者さんへの治療から、患者さんが抱えるプロブレムの解決をサポートするプライマリケアまで、幅広い診療を行っています。対象となる疾患は、心不全、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、高血圧、不整脈(心房細動、心室期外収縮など)、心臓弁膜症、閉塞性動脈硬化症などが挙げられます。

心不全や不整脈、虚血性心疾患のエキスパートが所属していることは、当科の強みです。さらに医学・医療の知識を身につけ、一定の診療を行える診療看護師(JNP)が当科に所属しており、充実した体制を整えています。患者さんにとっても、診療看護師がいることで科学的根拠に基づいた、医師ではなく看護師の目線での、きめ細やかな対応ができるなど多くのメリットがあります。

### 入院時だけでなく 退院後を見据えたケアを重視

日々の診療で心がけているのは、短期間で同じ病気の再発/入院を防ぐこと。たとえば、慢性心不全であれば、完治はできませんが、進行を遅らせることは可能です。また、近年は加齢

や疾患がきっかけとなり筋肉量・筋力が低下するサルコペニアや、身体的・精神的な機能が衰えるフレイルが増えていて、注意が必要です。

こうした疾患・状態の予防は、入院時の治療だけでなく、退院後の適切なケアが欠かせません。そのために当科では、患者さんご家族、多職種のスタッフを交えた退院前カンファレンスを開いて、丁寧に指導しています。そして、地域医療連携室が中心となって、ニーズに応じた医療・介護施設やサービスをご紹介します。

### 不整脈の早期発見につながる 新しいホルター心電図を導入

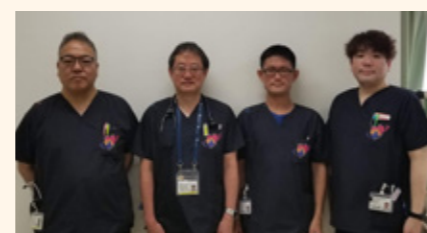
新しい技術を効果的に導入していることも特徴のひとつです。最近ではコードレスホルター心電図が挙げられます。電線がなく絆創膏くらいの小型なので不快感が少なく、胸の真ん中に貼るので半身浴も可能です。最長1週間連続して記録できるため、これまで見つけにくかった不整脈の早期発見で効果を発揮します。また、終了時の取り外しはご自分で行い郵送していただくこともできるので、外すためにわざわざ来院の必要がなく、患者さんの負担軽減にもつながります。

今後、力を入れていきたいのは、日常生活動作が自立している、あるいは制限がなく暮らせる

「健康寿命」の延長です(2022年の滋賀県は男性73歳、女性74歳)。要介護の大きな原因となっている心不全の発症・進行を防ぐために、治療に加えて予防について、地域の方々への啓発活動にも取り組んでいきたいと考えています。

当科の心不全治療の実績は、国際的にも評価され、国際共同臨床試験に参画し、新しい治療薬の効能効果判定に貢献しています。その業績のひとつDELIVER試験は英文誌(New Engl J Med)に掲載され、現在も2つの臨床試験が進行中です。今後も心臓血管病の予防を目指し、最善の治療を提供し、地域医療を支えたいと考えています。

※診療看護師(JNP)とは、5年以上の看護師経験を経たのち大学院修士課程での医学教育を修了し、日本NP教育大学院協議会が実施する資格認定試験に合格した看護師です。医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができます。



当科オリジナルデザインのスクラブを製作しました。

## 呼吸器内科



呼吸器内科医長

和田 広



### 肺炎・喘息から結核まで 幅広い呼吸器疾患に対応

呼吸器内科では、呼吸器感染症(肺炎、真菌感染症など)をはじめ、間質性肺炎、びまん性肺疾患、閉塞性肺疾患(COPD、気管支喘息など)、MAC症をはじめとする非結核性抗酸菌症など、さまざまな呼吸器疾患に対応しています。



また、滋賀県内では非常に少ない結核病棟(16床)を備えていることが大きな特色です。

肺がんについては呼吸器外科が中心となって治療を行っていますが、患者さんの状態に応じて当科も連携・協力して治療にあたっており、合同でカンファレンスや検査を行い、効果的な治療につなげています。

東近江エリアでは呼吸器内科のある医療機関が限られているため、当院は呼吸器疾患における地域の中核病院の役割を担っているといえるでしょう。

### 信頼の医療を提供するため 患者さんとの コミュニケーションを重視

当科が診療を行ううえで重視しているのが、患者さんに納得・信頼していただける医療を提供することです。ライフスタイルや価値観の多様化している現在、患者さんが希望される治療や退院後の生活も異なります。そうしたなか、疾患の一般的な治療をすることが必ずしも患者さんにとって必ずしも幸せとは限りません。

よく「病気だけを診るのではなく、人を診ることが大切」といわれますが、まさにその通りで、患者さんご家族とコミュニケーションをしっかりと、「どんな治療を望まれているのか」、「退院後はどんな暮らしをイメージされているのか」といったことを話し合っ、適切な治療・ケアを行うように心がけています。

### 地域のかかりつけ医と連携して 患者さんの健康をサポート



当科は2014年に常勤医師が2名体制になり、より多くの患者さんに対応できるようになりました。目標である年間入院患者数300名も、ほぼ達成している状態です。また、地域の先生方からのご紹介にも積極的に対応し、地域医療に貢献できるよう努めています。たとえば、ご紹介いただいた患者さんが退院された後も、リスクや難治性の高い疾患については定期的に当科で診療させていただくなど、柔軟に対応しています。こうした取り組みが質の高い医療の提供につながるため、これからも力を注いでいきたいと考えています。





各部門のお仕事がよくわかる！

教えて！  
東近江総合  
医療センター

## 東近江総合医療センターの部門紹介



今回ご紹介する部門は

# 研究検査科

## 研究検査科ってどんなところですか？



### 研究検査科はどのような仕事をしている所？

研究検査科は、前野科長(糖尿病・内分泌内科医長)を筆頭に臨床検査技師13名、業務技術員1名のスタッフで、地域医療の中核を担う当センターの運営を24時間体制で支えています。主な仕事には、検体検査と生理学的検査があります。検体検査は、一般検査・血液検査・生化学検査・輸血検査・細菌検査・病理検査など診療に必要な検査の大部分を院内で実施できる体制をとっています。昨年10月には、検査機器を最新の機器に更新しました。以前に比べ分析時間も短縮しました。医師会や臨床検査技師会主催の精度管理事業にも参加しています。精度の高い正確な検査結果をより早く提供できるようにしております。また、コロナウイルスのPCR検査も24時間体制で対応しています。生理学的検査では、心電図検査や超音波検査などを実施し、患者さんの体の異常を把握して臨床に速やかに報告し、診療に貢献しています。

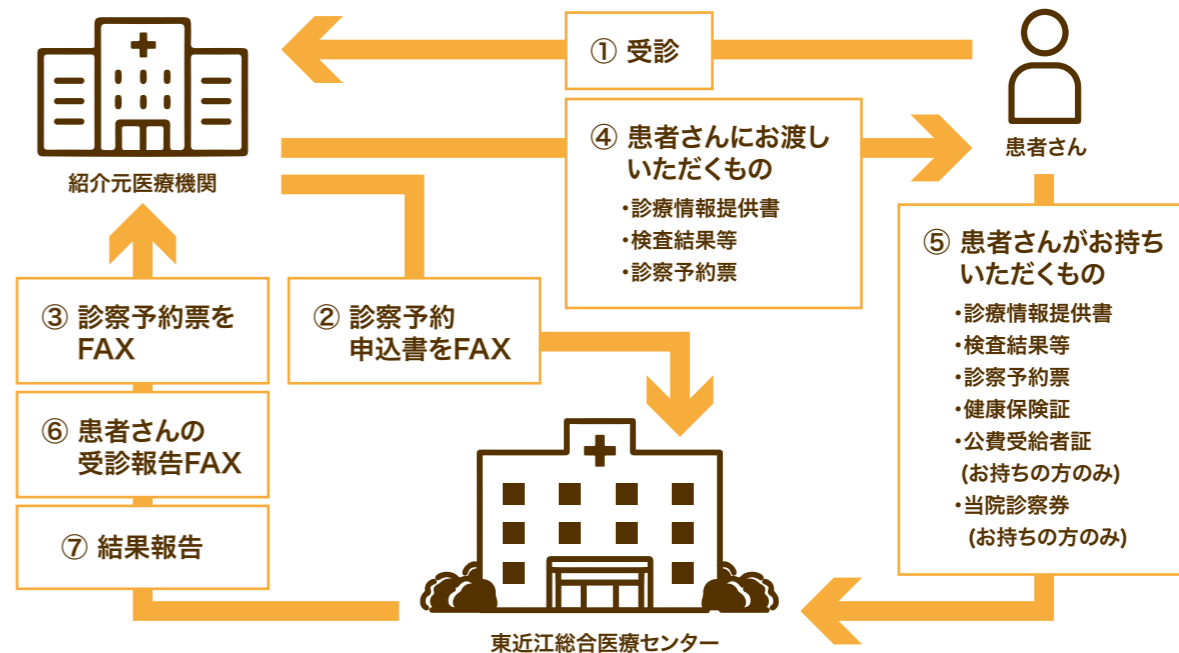
### 検査のプロ集団

検査結果がその後の治療方針を左右するため、検査のプロとして常に早く正確に検査を行うこと、異常な検査結果や所見に気が付き速やかに報告することが大切なことと考えています。医療技術は日々進歩しており、その都度新しい知識や技術を身に付ける必要があり、常に勉強する姿勢が大切になります。各種認定、専門資格の所得も推進しています。病気の診断・治療や予防と早期発見するために、これからもスタッフ一同頑張ります。



☑️ **連携室 だより** 当センターからのお知らせをお届けします。

## あらかじめ予約することで、待ち時間の短縮にも！ ご紹介の手続きと予約診療の流れ



- ① 患者さんに地域医療機関を受診していただきます。
- ② 地域医療機関から、必要事項を記入した診察予約申込書をFAXにて送付いただきます。
- ③ 受診いただく日時・担当医を記載した診察予約表票を依頼元へFAXさせていただきます。
- ④ 依頼元の先生方より、患者さんへ診察予定票・紹介状をお渡しいただきます。  
受診当日、患者さんは以下の物をお持ちの上、当院受付内の初診窓口へお越し下さい。  
・診療情報提供書(紹介状・検査結果等)  
・健康保険証  
・診察予約票(地域医療機関の医師より受け取ってください。)
- ⑤ 簡単な手続きの後、診療科へご案内いたします。
- ⑥ 依頼元の地域医療機関へは、患者さんが受診なされた旨をFAXにてご報告いたします。
- ⑦ 診察医より、診療結果報告を地域医療連携室を通してご報告させていただきます。

お問い合わせ  
**地域医療連携室**  
TEL  
**0748-22-3030**  
FAX  
**0748-22-5626**

## がん患者サロンへのお誘い 「むらさきの縁(えにし)」にいらっしゃいませんか？

「むらさきの縁」は、がん患者さんやそのご家族の交流の場です。話をすることや聞くことで、気持ちが楽になったり、学びあえたりして元気になれることがあります。予約は不要で、1回だけでも参加いただけます。ぜひ気軽にお越しください。

主催  
滋賀県がん患者団体連絡協議会  
お問い合わせ  
地域医療連携室  
TEL  
0748-22-3030(代)

令和5年度の開催日 (原則：第4木曜) 場所 当院 2階きらめきホール 時間 13:30~15:30

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
—	—	—	—	—	28日	26日	22日	28日	25日	22日	28日

※がん患者サロン開催地域に朝10時時点で気象に関する警報が発令されている時は中止です。ご不明な場合は開催病院にお問い合わせください。